

受け継ぐ

3月11日は、何の日でしょうか。私たちは、2011年3月11日、14時46分からのことは忘れてはいけません。生徒の皆さんにとっては、忘れてはいけないではなく、新たに心に刻（きざ）むべきことになるのでしょうか。心に何かを感じたら、それを受け継いでいくのは大事なことです。

心に刻むために、改めて東日本大震災のことを取り上げます。今でもニュースなどで、震災に関わることが報道されることがあります。しかし、私たちは、同じ福島県の被災地域のことを、どこまでわかっているのでしょうか。被災された方々のことを、どのくらい考えているのでしょうか。

被災地域の中学校の現在の生徒数を調べてみました。浪江（なみえ）町立なみえ創世（そうせい）中学校23名、葛尾村立葛尾（かつらお）中学校4名、双葉町立双葉（ふたば）中学校12名、富岡町立富岡（とみおか）中学校21名、楡葉町立楡葉（ならは）中学校47名、大熊（おおくま）町立学び舎ゆめの森（7・8・9年生）3名などとなっています。

双葉中学校は、双葉町の中学校ですが、現在はいわき市にあります。双葉町が全町避難となっていたからです。仮設校舎で今年度が10年目になります。楡葉中学校も、震災後、いわき市の仮設校舎を使っていました。場所は、いわき明星大学、現在の医療創世大学の敷地内です。現在は楡葉町に戻り、7年目となります。

大熊町には、大熊中学校がありました。震災後は会津若松市で仮校舎を使って学校が再開されました。その後、仮設校舎に移りました。令和4年からは、小学校と中学校が一つの学校となり、学び舎ゆめの森となりました。令和5年度からは、大熊町にできた新校舎での生活が始まっています。

生徒数を見ると、とても少ないことがわかります。それでも、昨年度よりも増えているのです。野田中学校には、357名の生徒がいます。全校で4名の生活というのは、なかなかイメージできないでしょう。きっと、やりたくてもできないこともあるにちがいありません。

その一方で、葛尾中学校では、SDGsに取り組み、「ぎぶんSDGs大賞」において、「環境大臣賞」を受賞しています。また、双葉中学校では、地球温暖化対策に取り組む学校をたたえる「ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度」において「特別賞」を受賞しています。

これらの学校にも野田中学校にも、それぞれのよさがあります。機会があるたびに、福島県をはじめとして震災直後から震災後の現在までの現実を知り、それを理解し、これからのことを考えていくことは重要なことです。毎年、3月11日が、そのきっかけとなります。これからも、みんなで震災のことを受け継いでいきましょう。